



基礎自治体職員におけるデザイン手法に関するアンケート調査 -2021年度共同研究成果-

2022.7

株式会社日本総合研究所
学校法人武蔵野美術大学

調査の実施概要

背景

- 地方自治体を取り巻く課題としては、少子高齢化対策、脱炭素社会の実現に加え新型コロナウイルス感染症への対応などが挙げられ、行政が扱う政策課題が多様化、複雑化している。
- こうした複雑化する行政の課題に対してデザインの方法論が活用され始めている。（欧米先進事例）
- 本調査では広義のデザイン手法（従来型のロジカルシンキングや技術中心的な考え方にとどまらず、ユーザーを中心に据えて仮説探索・検証を繰り返して新たな問題解決の方法を発見する考え方および手法）が多様化・複雑化する政策課題に対して有効であるという仮説に基づいて調査を行う。

目的

自治体における課題の現状とデザイン方法論の活用可能性を探る

- 1.基礎自治体の政策上・日常業務における問題および課題認識を明らかにする。
- 2.基礎自治体におけるデザイン手法の導入度、実践度合いを明らかにする。
- 3.基礎自治体におけるデザイン手法導入の可能性および障壁を明らかにする。

調査概要

- 以下の内容にて、インターネットによるアンケート調査を実施。

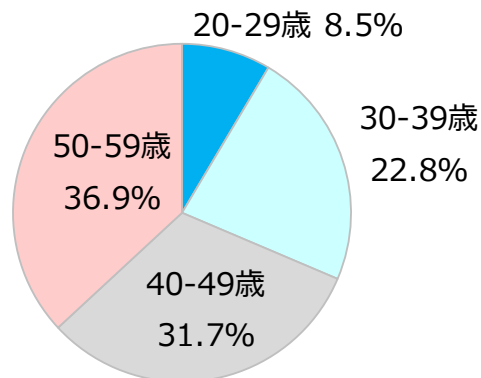
調査名	• 基礎自治体職員におけるデザイン手法に関するアンケート調査
調査方法	• インターネット調査（民間調査会社のモニターを活用）
調査対象	• 全国の地方公務員のうち市区町村に常勤する行政職(資格・免許職を除く)および技術職の方 • 20歳～59歳、男女
有効回答数	• 1,545人
調査時期	• 2022年3月11日(金)～3月13日(日)
主な調査項目	• 政策立案・実施時における課題認識について • 広義の「デザイン」の認識について • 政策立案・実施時におけるデザインの実践について • 基礎情報・属性

出所：武蔵野美術大学・株式会社日本総合研究所作成

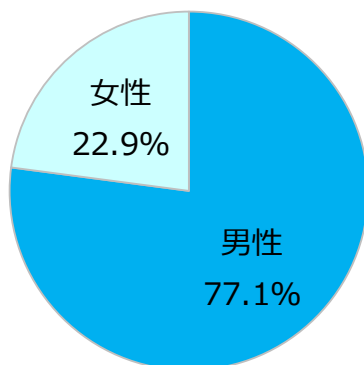
回答者属性__年代・性別・業種など

全国の地方公務員のうち市区町村に常勤する行政職(資格・免許職を除く)および技術職の方が対象。

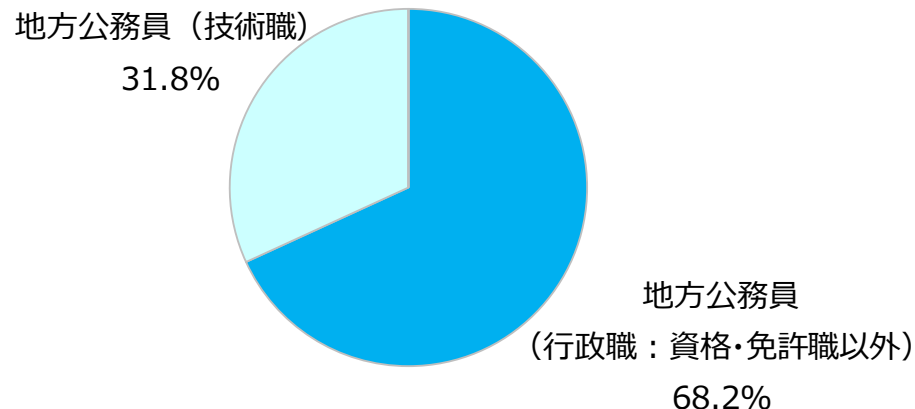
[Q1]年代
【SA(n=1,545)】



[Q2]あなたの性別をお知らせください。
【SA(n=1,545)】



[Q6]あなたがお勤めの、公務員の業種をお知らせください。
【SA(n=1,545)】



[Q5]あなたの現在のご職業をお知らせください。
【SA(n=1,545)】

公務員:100%

[Q7]あなたがお勤めの地方公共団体の区分を教えてください。
【SA(n=1,545)】

市区町村:100%

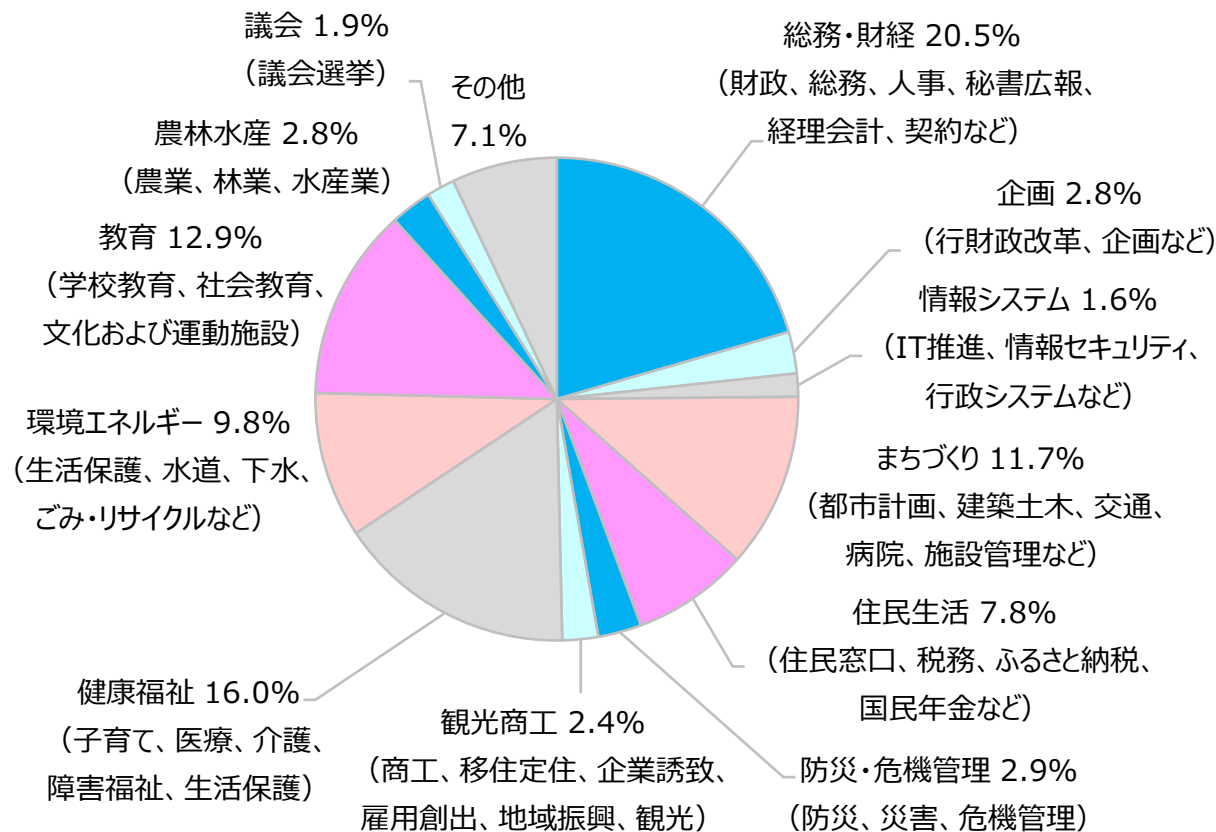
[Q8]あなたの雇用形態について教えてください。【SA(n=1,545)】

常勤:100%

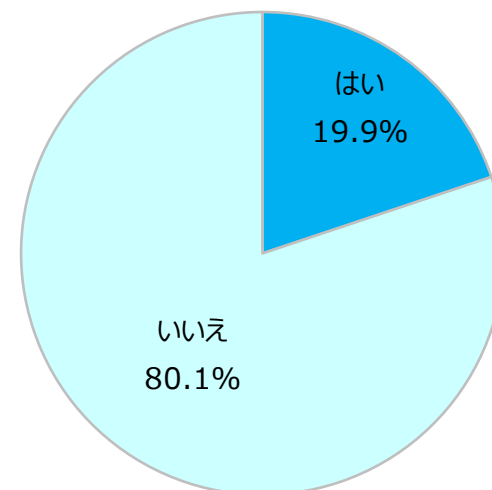
出所: 武蔵野美術大学・株式会社日本総合研究所作成

回答者属性_所属・役職

[Q32]あなたが現在所属している部局で担当している業務に最も近いものを選択してください。
【SA(n=1,545)】



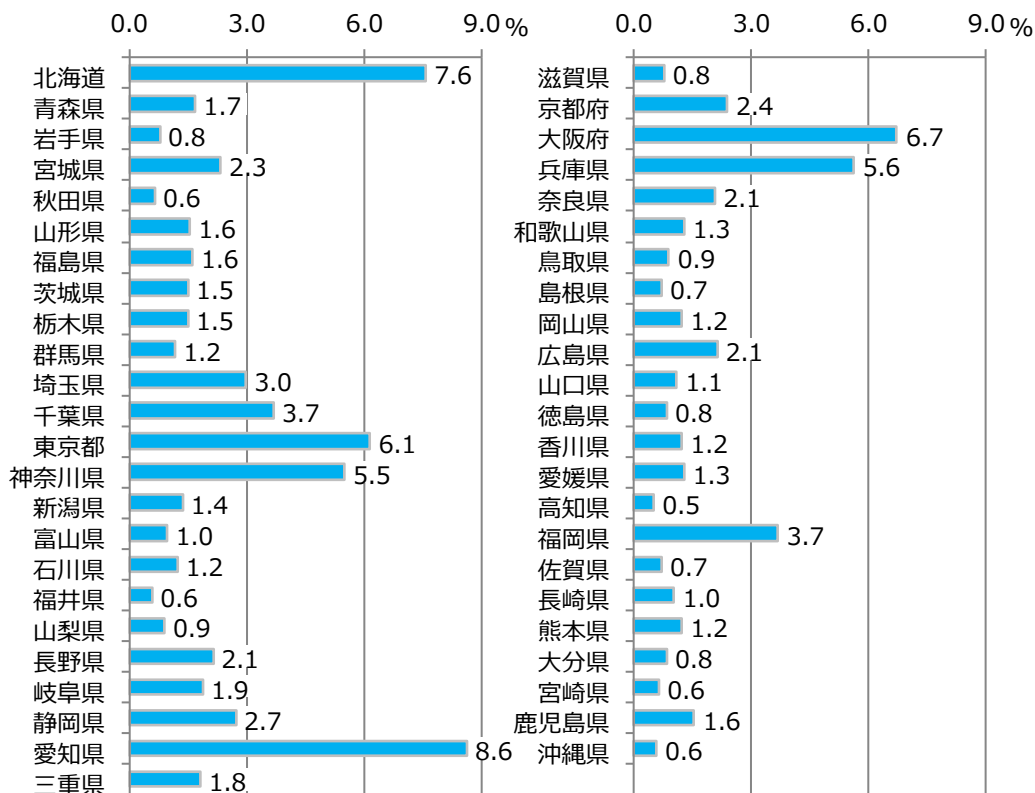
[Q33]あなたは現在、管理職に就いていますか。
【SA(n=1,545)】



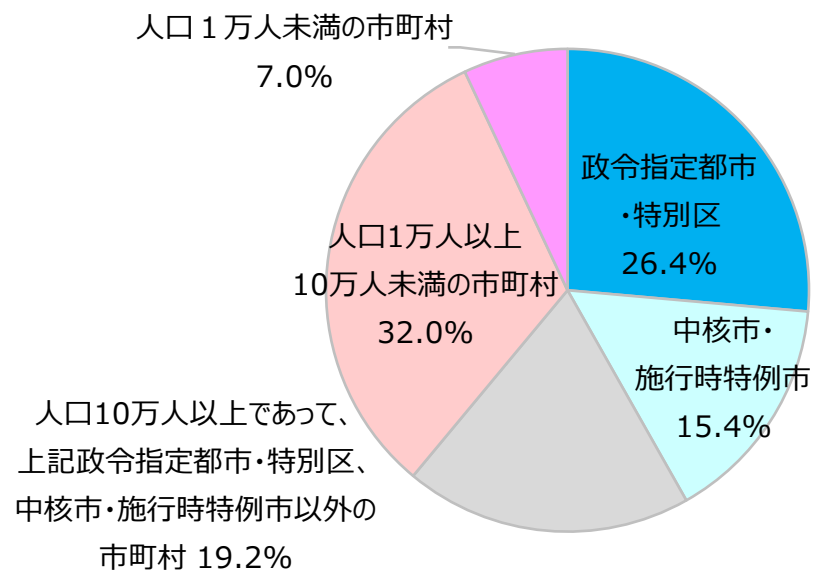
出所：武蔵野美術大学・株式会社日本総合研究所作成

回答者属性_勤務自治体・自治体規模

[Q37]あなたが勤めている自治体の都道府県を選択してください。
【SA(n=1,545)】



[Q38]あなたが勤めている自治体の団体規模の区分を選択してください。
【SA(n=1,545)】



出所：武蔵野美術大学・株式会社日本総合研究所作成

調査結果サマリー

調査結果サマリー

- 自治体における課題は複雑化・長期化している。デザイン（思考）の認知・活用は低い水準に留まるが、デザイン手法の内容を提示すると、バックカスティングやインタビューを中心に活用可能性があることがわかった。

主な調査項目	調査結果
1 基礎自治体の政策上・日常業務における問題および課題認識	政策課題の複雑化・長期化に加え、多様化するニーズの政策への活かし方に難しさを感じている。 - 日常業務において感じる困難として特に「政策課題の複雑化」「ニーズを踏まえた政策の形成」「10年以上の長期にわたる政策課題の設定」が挙げられる。 「人口減少」「超高齢社会」「財政状況の圧迫」のような日本における総体的な潮流に対して課題の複雑化を感じる傾向が強い。
2 基礎自治体におけるデザイン手法の導入度、実践度合い	デザイン思考の認知度・活用度ともに非常に低い水準。一方で人数は少ないが、デザイン思考を活用した経験のある人はその有効性を高く感じている。 - デザイン思考を知っている人の割合は8.4%と低く、またデザイン思考を知っている人のうち「行政実務において活用したことがある」割合は18.5%。 - 所属自治体等が主催する庁内職員向け研修を受講してデザイン思考を知った割合が高い。 - デザイン思考の活用場面は主に「アイデア出し」「提案・報告」時に多く活用されている傾向。 - デザイン思考はすべての活用場面において有効であるとの回答が70%を超える。
3 基礎自治体におけるデザイン手法導入の可能性および障壁	「バックカスティング」のような先入観に囚われない長期計画の立案方法や、「インタビュー」「観察調査」のような人々が心の奥底で抱えている問題を浮かび上がらせるような調査の方法に対する役割期待度が高い。 - デザイン思考に対する「理解」と「活用するためのノウハウの習得・実践・蓄積」を導入・活用の課題として挙げる人の割合が高い。 「デザイン思考を知っている人は知らない人と比較して将来像を描く手法の活用経験の割合が約70%と高く、またその中でもバックカスティング手法を活用したことがある割合が約45%と高い。

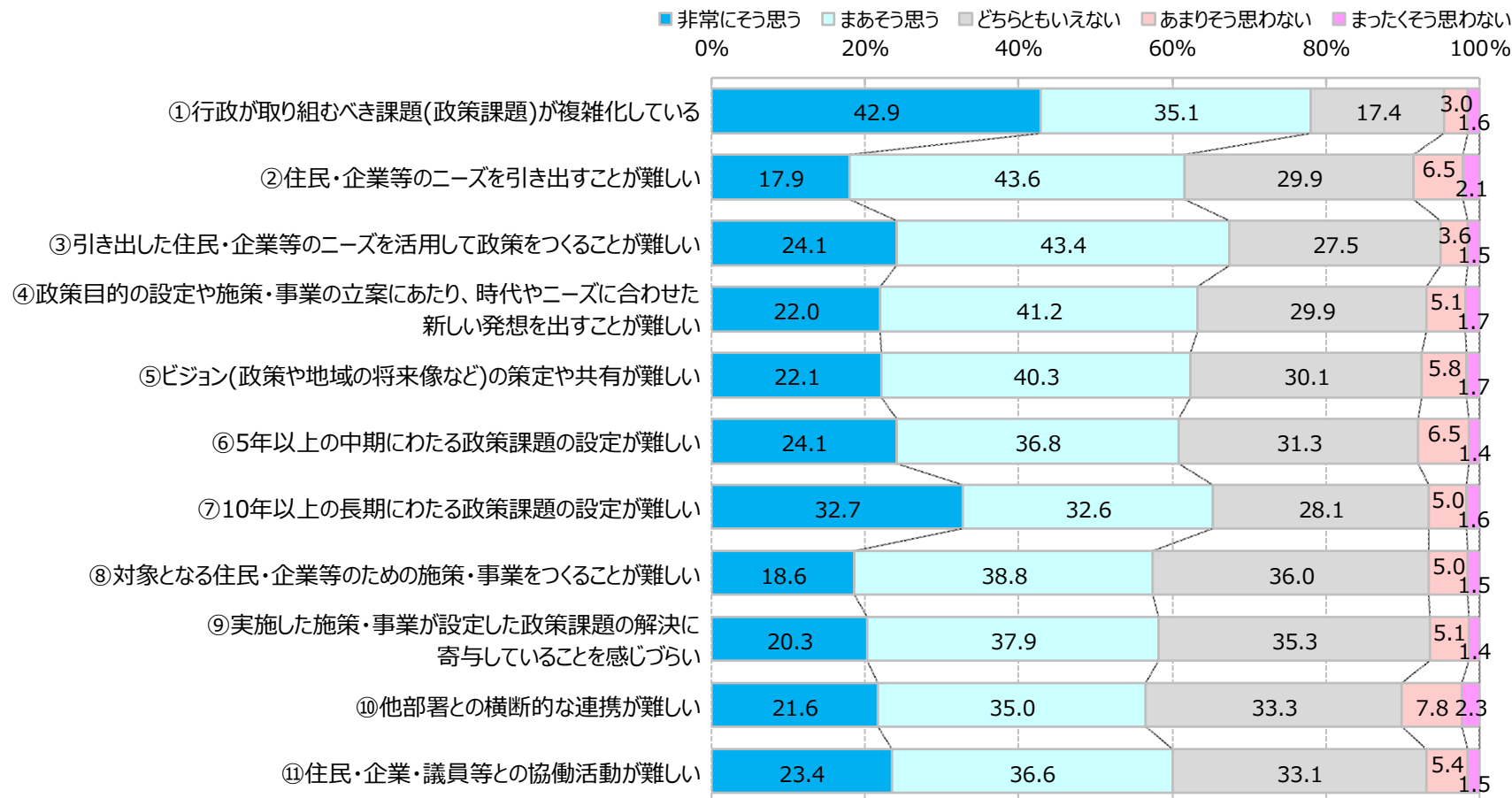
出所：武蔵野美術大学・株式会社日本総合研究所作成

基礎自治体の政策上・日常業務における問題や課題認識①

- 課題の複雑化・長期化に加え、多様化するニーズの政策への活かし方に難しさを感じている。

—「非常にそう思う」「まあそう思う」と回答した人は、政策課題の複雑化、ニーズを踏まえた政策の形成、10年以上の長期にわたる政策課題の設定、の順に高い。

政策の企画立案から行政サービスの提供における様々な日常業務の中で、あなたが日頃どのように思われているか①～⑪にお答えください
【単一回答 (n=1,545)】



出所：武蔵野美術大学・株式会社日本総合研究所作成

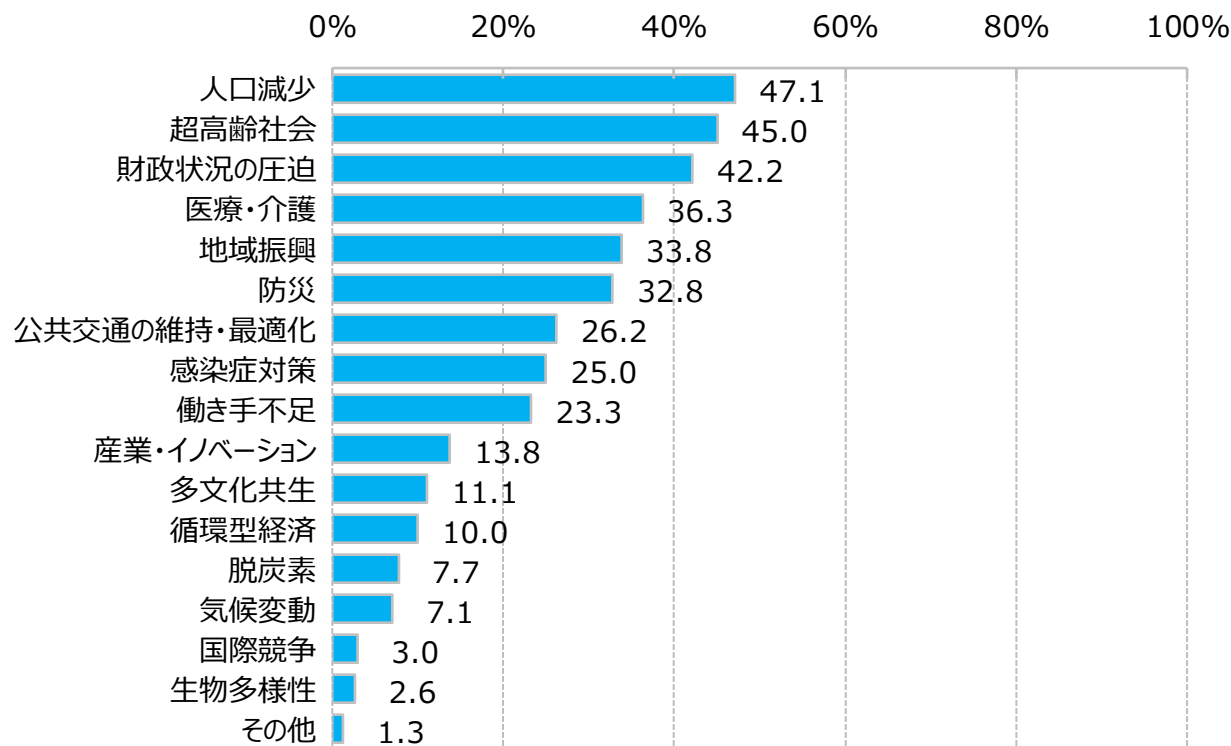
基礎自治体の政策上・日常業務における問題や課題認識②

- 「人口減少」「超高齢社会」「財政状況の圧迫」のような日本における総体的な潮流のほか、「防災」、「医療・介護」、「地域振興」といった地域が率先して対峙すべき政策課題に対して複雑化を感じている傾向がうかがえる。

—「生物多様性」「国際競争」「脱炭素」「気候変動」については回答者割合が10%未満となっており、分野によって取組の難しさが異なることが想定される。

行政が取り組むべき課題(政策課題)において、特に複雑化していると思う課題を最大5つまで選択してください。

【複数回答 (n=1,475)】



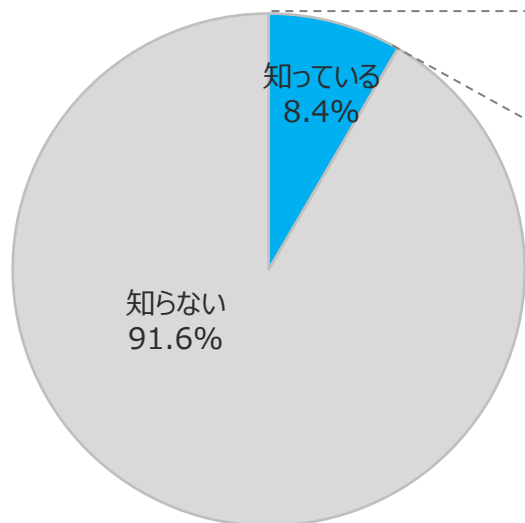
出所：武蔵野美術大学・株式会社日本総合研究所作成

基礎自治体におけるデザイン手法の導入度・実践度合い①

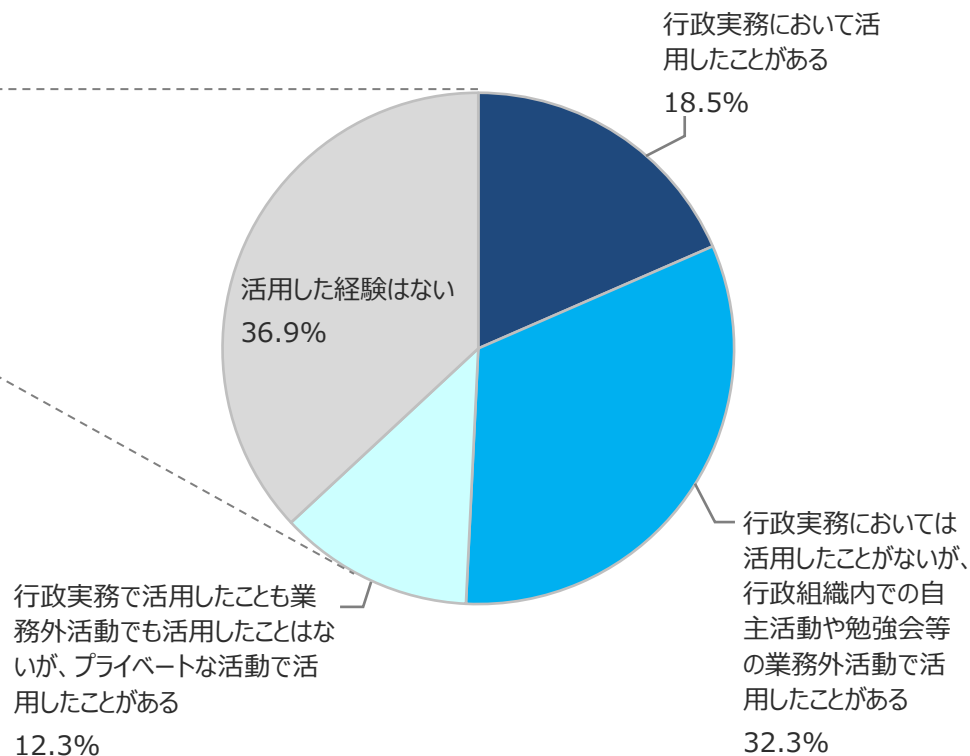
- デザイン思考の認知度・活用度ともに非常に低い水準。

ー 基礎自治体においてデザイン思考を知っている人の割合は8.4%と低く、またデザイン思考を知っている人のうち「行政実務において活用したことがある」割合は18.5%。

あなたは、「デザイン思考」を知っていますか。
【単一回答 (n=1,545)】



あなたは「デザイン思考」を活用した経験はありますか。あてはまるものを1つ選択してください。【単一回答 (n=130)】

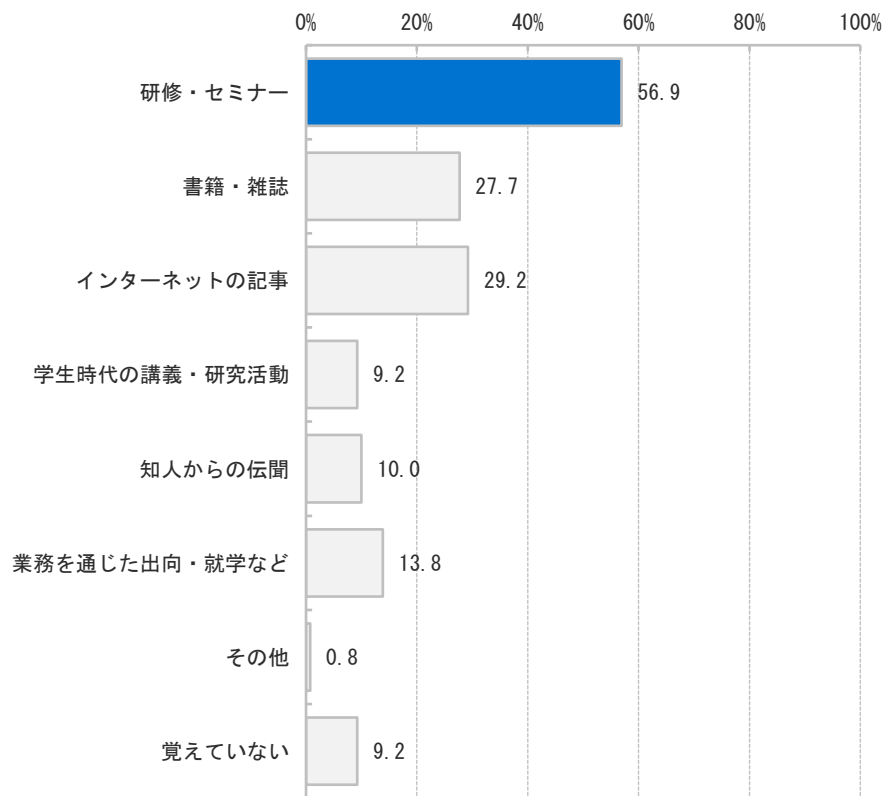


出所：武蔵野美術大学・株式会社日本総合研究所作成

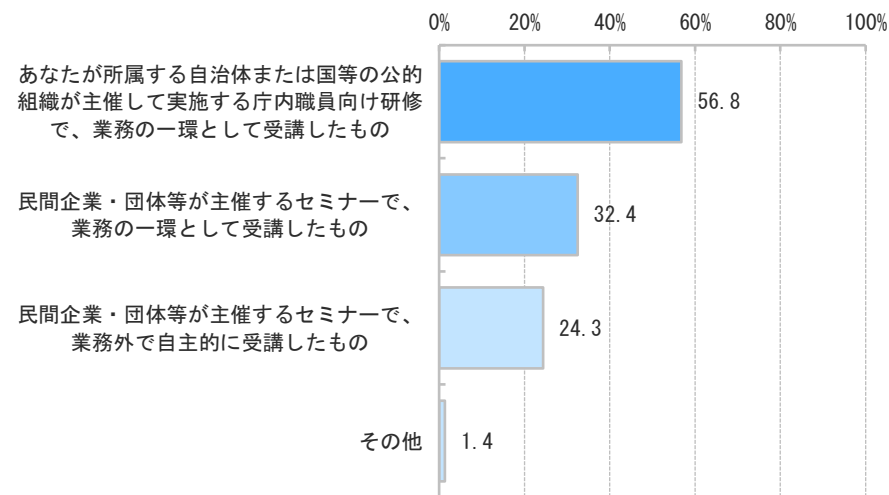
基礎自治体におけるデザイン手法の導入度・実践度合い②

- デザイン思考を知った経緯は研修・セミナーの割合が最も高く、中でも所属自治体等の公的組織が主催する庁内職員向け研修を業務の一環として受講した割合が高い。

あなたはどこで「デザイン思考」を知りましたか。あてはまるものをすべて選択してください。【複数回答 (n=130)】



あなたはデザイン思考に関する研修やセミナーをどこで受講したことがありますか。あてはまるものをすべて選択してください。【複数回答 (n=74)】

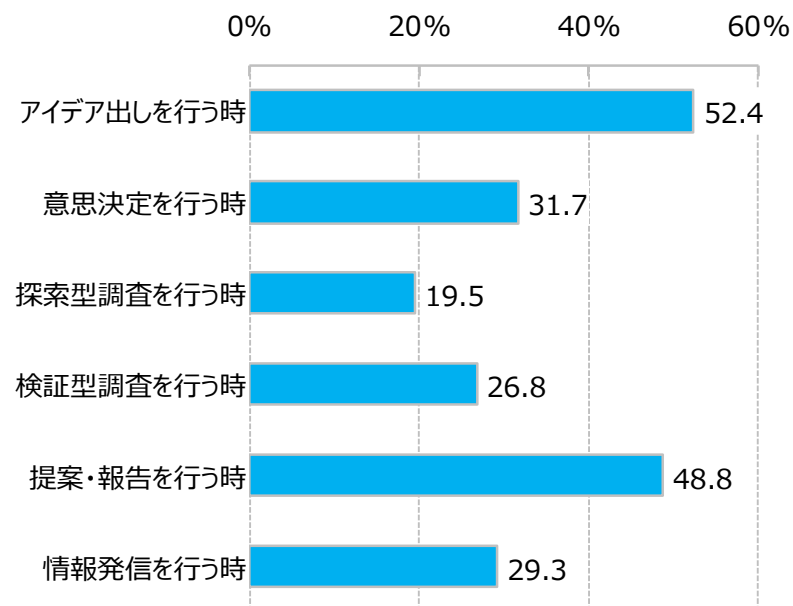


出所：武蔵野美術大学・株式会社日本総合研究所作成

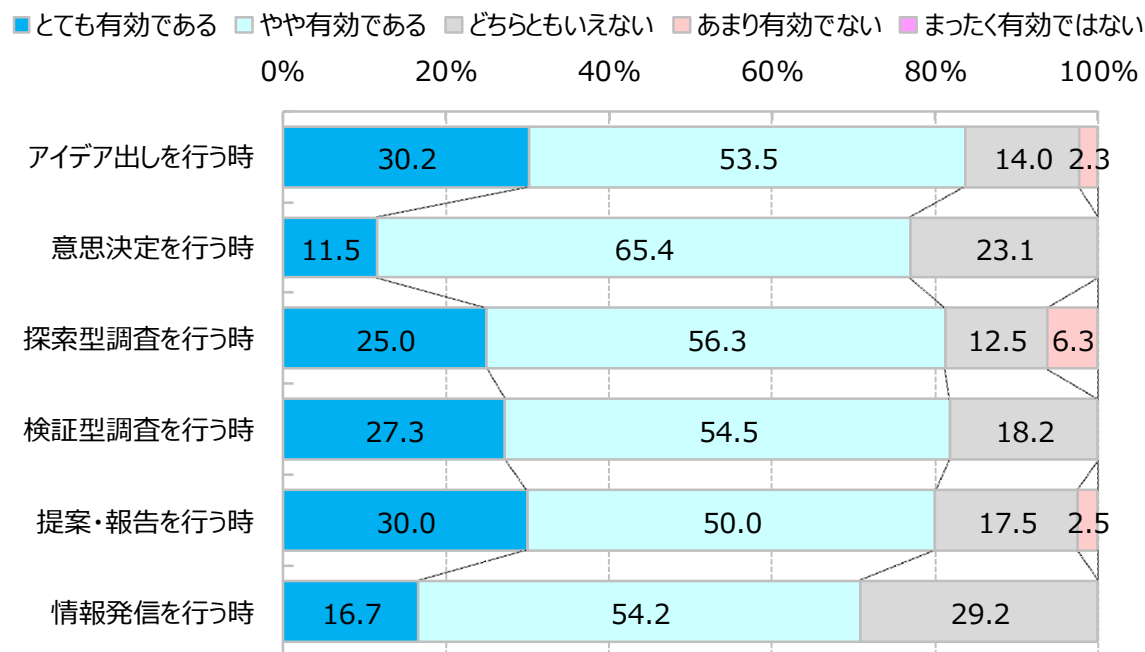
基礎自治体におけるデザイン手法の導入度・実践度合い③

- 人数は少ないが、デザイン思考を活用した経験のある人はその有効性を高いと感じている。
 - デザイン思考の活用場面：主に「アイデア出し」「提案・報告」時に多く活用されている傾向。
 - デザイン思考の有効性：すべての場面で「とても有効である」「やや有効である」の回答の合計が70%を超える。

あなたは「デザイン思考」をどのような場面で活用しましたか。
あてはまるものをすべて選択してください。
【複数回答 (n=82)】



あなたは「デザイン思考」が有効な手段であったと思いますか
【単一回答 (n=82)】



出所：武蔵野美術大学・株式会社日本総合研究所作成

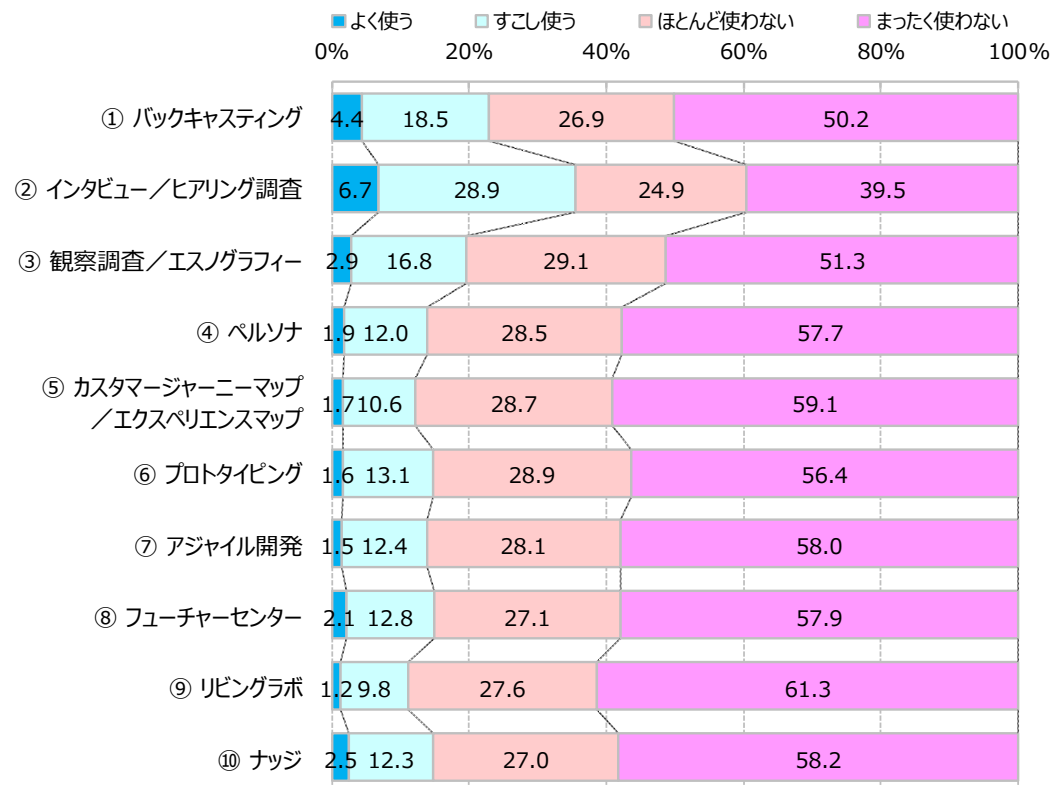
基礎自治体におけるデザイン手法導入の可能性①

- 「バックカスティング」のような先入観に囚われない長期計画の立案方法や、「インタビュー」「観察調査」のような人々が心の奥底で抱えている問題を浮かび上がらせるような調査の方法に対する役割期待度が高い。

ー 日常業務において殆どのデザイン手法があまり活用されていない中、「バックカスティング」「インタビュー調査」「観察調査」の利用割合は相対的に高い。

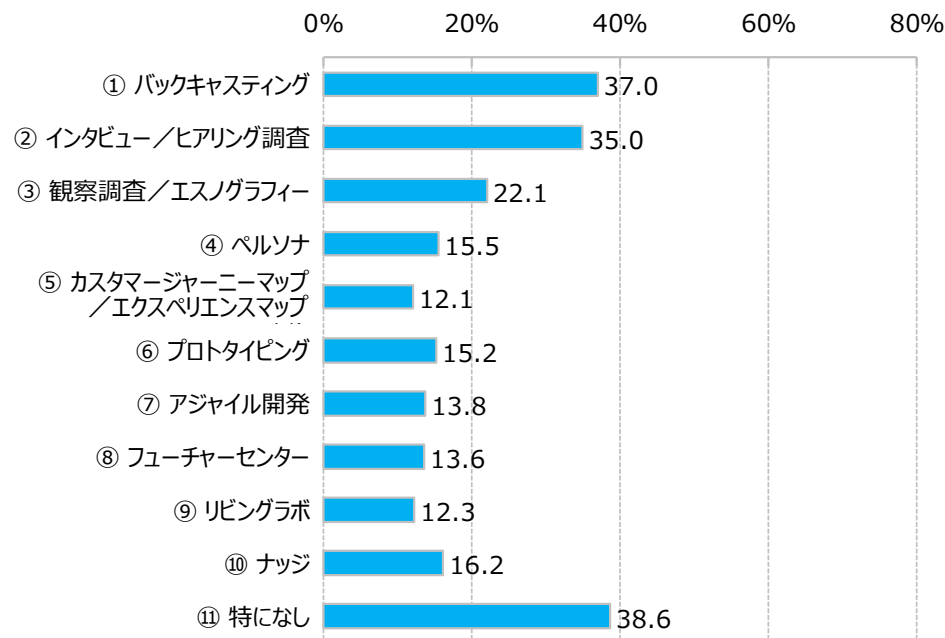
政策の企画立案から行政サービスの実施において、以下の手法をあなたは日常業務の中でどの程度使っていますか。①～⑩にお答えください。

【単一回答 (n=1,545)】



①～⑩の手法について、あなたが日常業務の中で役立つ、または役立ちそうだった手法をすべて選択してください。※手法を活用した経験は問いません。

【複数回答 (n=1,545)】



出所：武蔵野美術大学・株式会社日本総合研究所作成

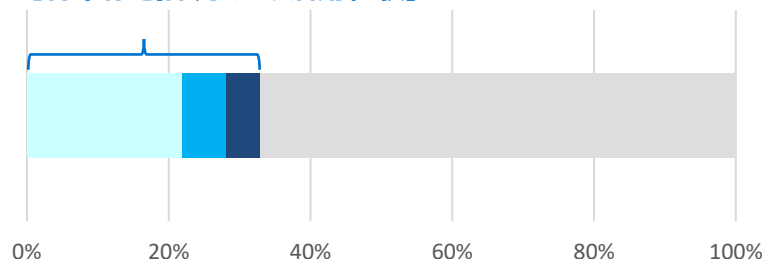
基礎自治体におけるデザイン手法導入の可能性②

- 将来像を描く手法およびバックカスティング手法はデザイン思考と併せた導入可能性および活用余地がある。
 - デザイン思考を知っている人は知らない人と比較して将来像を描く手法の活用経験の割合が約70%と高く、またその中でもバックカスティング手法を活用したことがある割合が約45%と高い。

あなたが現在所属する部局において、基本計画・分野別計画などの策定にあたり、どの手法を用いたことがありますか。あてはまるものを1つ選択してください。【単一回答 (n=1,545)】

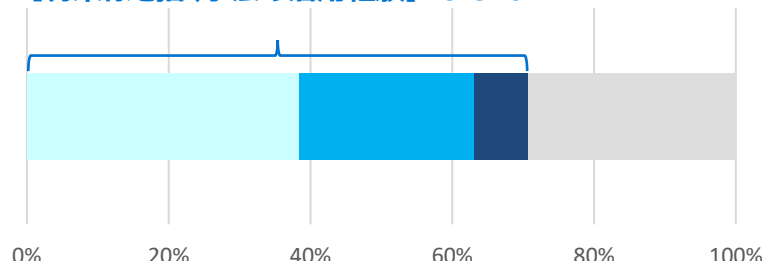
デザイン思考を
知らない
(n=1415)

【将来像を描く手法の活用経験】32.9%



デザイン思考を
知っている
(n=130)

【将来像を描く手法の活用経験】70.8%

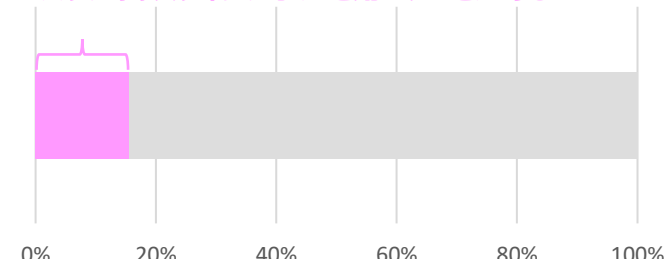


現在の情報や様々な立場の意見・ニーズを取り入れ政策の将来像を自ら描く手法
一見地域の未来とは関係なさそうな変化を取り入れて地域や社会の将来像を描く手法
上記のどちらも用いたことがある
上記のどちらも用いたことがない

あなたが現在所属する部局では、基本計画・分野別計画などの策定にあたり、将来像から逆算して取り組むべき課題を設定するバックカスティングの手法を用いたことがありますか。【単一回答 (n=557)】

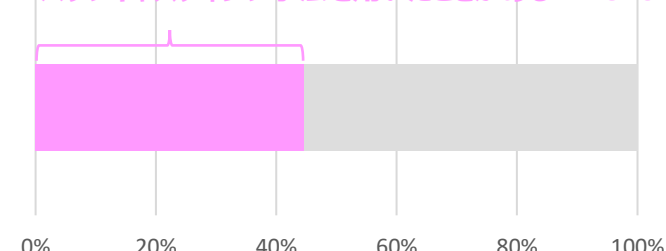
デザイン思考を
知らない
(n=465)

バックカスティング手法を用いたことがある15.5%



デザイン思考を
知っている
(n=92)

バックカスティング手法を用いたことがある44.6%



バックカスティング手法を用いたことがある
バックカスティング手法を用いたことはない

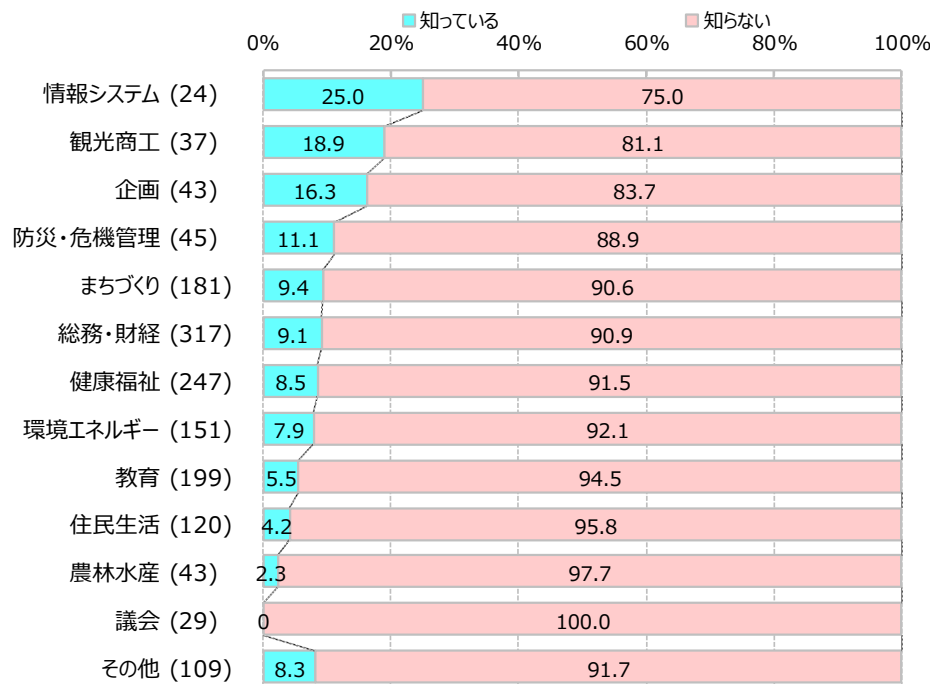
出所：武蔵野美術大学・株式会社日本総合研究所作成

基礎自治体におけるデザイン手法導入の可能性③

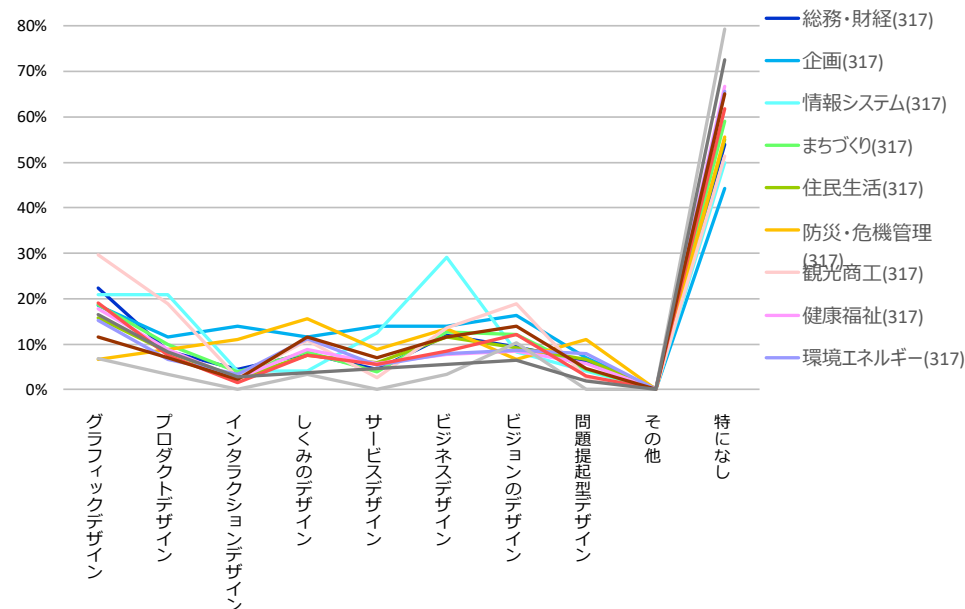
- 部局別にデザイン思考およびデザイン適応領域の認知に差がある為、浸透度合いや業務の特性にあわせたデザイン手法の導入が求められる。
 - デザイン思考は“情報システム”“観光商工”“企画”に所属する人の認知割合が特に高い。
 - デザイン適応領域において“企画”はインタラクション、サービス、ビジョンが高く、“観光商工”はグラフィック、プロダクト、ビジョンの認知度が高い。

あなたは、「デザイン思考を知っていますか。

【単一回答 (n=1,545)】



以下のデザインおよびデザインが適用される領域のうち、あなたがよく知っていると思うものをすべて選択してください。【複数回答 (n=1,545)】



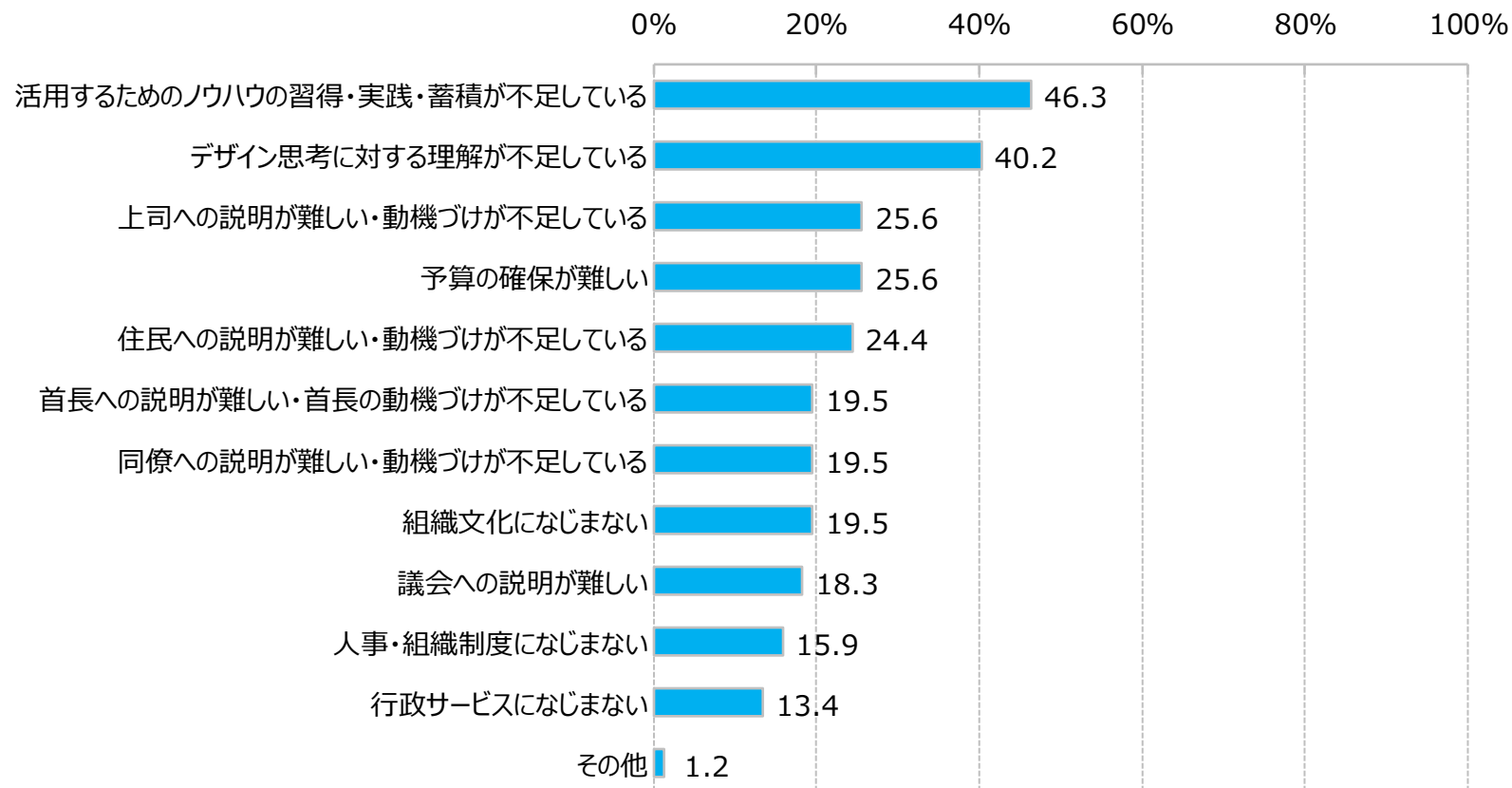
出所：武蔵野美術大学・株式会社日本総合研究所作成

基礎自治体におけるデザイン手法導入の障壁

- デザイン思考に対する「理解」と「活用するためのノウハウの習得・実践・蓄積」を課題として挙げる人の割合は40%を超えており、デザイン思考に触れたことのない人に対する説明の難しさが予想される。

「デザイン思考」を自治体業務に導入・活用するにあたり、課題になるとあなたが思うものを最大5つまで選択してください。

【複数回答 (n=82)】



出所：武蔵野美術大学・株式会社日本総合研究所作成